平成２９年度　甲佐町立甲佐小学校　学校便り

清　流

目指す学校像
子どもの笑顔が輝き
勢いのある学校

No.40（H30. 2. 22発行）文責 校長 福田雅也

神様が力を貸してくれるのは…

神様は確かに存在する。　そして神様は奇跡を起こしてくれる。
しかし、神様は死ぬほど努力をした者にしか力を貸してくれない。

マラソンの日本記録保持者だった「藤田敦史」選手の言葉です。藤田選手は、大学時代から、日本長距離界のトップランナーとして活躍した選手です。しかし、前述のようにマラソンで日本最高記録を作ったにも関わらず、けが等もあり、オリンピックにはとうとう出場できなかった選手でもあります。そして、この言葉は、シドニー五輪への挑戦を故障により断念した後、再起をかけて走った、2000年12月の福岡国際マラソンにおいて、念願の初優勝をした際に残したものです。この時の2時間06分51秒が、当時の日本男子最高記録でした。

現在、どのご家庭もピョンチャン・オリンピックが話題の中心ではないでしょうか。昨日も、日本のメダル獲得数が、冬季五輪過去最高の１１個に増え、喜んだ方も多かったのではないでしょうか。私ももちろん、スケート、カーリングとチャンネルを変えながら放送を見入っていました。４年間の日々を、（金）メダルという目標に向かってささげてきた選手たちが繰り広げる勝負には、息を呑むものがあります。そして、まさに、藤田選手の言葉が頭をよぎるような場面もいくつかありました。

・何と言っても、一番に挙げられるのは、けがの影響でぶっつけ本番だった羽生選手の男子フィギュアスケートの金メダルでしょう。
・そしてもちろん、女子スピードスケートの小平選手、高木選手がこれまでのくやしさをバネに手にした複数のメダルも見事でした。
・また、４年前には金が確実と言われながらメダルを逃した高梨選手が、苦しみながらやっと手にした銅メダルには、銅メダル以上の価値があるように感じたのは私だけではないでしょう。
・個人の走力ではオランダチームに及ばないにも関わらず、チームとして一糸乱れぬ隊形で走り抜き、金メダルを獲得した女子チームパシュートも見事でした。
逆に相手のチーム力により勝利から見放された場面もありました。
・男子ノルディック複合ラージヒルの後半、トップでスタートしたにも関わらず、風よけ役を交代しながら、後ろから追い上げてくるドイツ勢３人に最後は逆転され、メダルにも届かなかった渡部選手がそうでした。
どの場面の勝者も敗者も、間違いなく「死ぬほど努力した者」なのでしょう。「死ぬほど努力した者」同士だからこそ、その結果がどちらかにとっての奇跡となり、見る人の心に感動を生むのでしょう。

私たちに、これらのトップアスリートと同じような努力をすることは難しいことです。しかし、同じような気持ちで努力することはできそうです。

人事を尽くして天命を待つ

このことわざがそれに当てはまると思います。自分の全力をかけて努力をしたら、その後は静かにその結果を待ち、その結果を受け入れるという意味になるでしょう。せめて、このくらいの気持ちはもって日々努力していきたいものです。